

人と人のつながりで 起業を支援

大学生が聞きました！

●インタビュー

田所和音(大阪府立大学3回生)

金澤春佳(立命館大学3回生)

平成20(2008)年以降に起業した人の4分の1が女性。

そんな女性たちの後押しをする、大阪市女性起業家情報交流協会会長の阿部純子さんにお話を聞きました。

＊女性起業家たちで大阪を元気に＊

大阪市女性起業家情報交流協会(We' s・ウェス)は、女性起業家または起業をめざす女性たちが交流や情報交換をしながら互いに高め合ったりビジネスチャンスを創出したりすることで、ますます大阪を活性化させることを目的としています。今年度は年に8回、女性のための「起業と経営」情報交換会を開催し、参加者が毎回のテーマごとに悩みや相談などをグループワーク形式でディスカッションできる学びの場を設けています。毎回、話が盛り上がり、交流を深めることで人脈をつくる機会となっています。

平成23(2011)年からは年に一度、女性の起業家だけでなく就業者や男性管理職、学生や主婦など、様々な立場の人が集い、女性が活躍するには何が必要かを考える「100人で考える『女性の力』フォーラム」を開催しています。その他にも、男性経営者が多く集う会と共同でセミナーやワークショップを開催しています。意識的に複数の団体との交流も企画することで、新たな出会いがあったり、刺激を受けたりする場も設けています。

＊女性の起業はさまざま＊

「起業」といっても規模や形態はさまざまで、特に女性は開業の費用も男性と比較して少ない傾向があります。そもそも女性が起業する動機は、「趣味・特技を活かしたかった」「年齢・性別で制限されることなく働きたかった」など多様で、自己表現や人生を豊かにするための手段として、起業を選択する女性が増えています。インターネットショップや株式会社が設立しやすくなった影響か、起業に関する様々なイベントが企画され、起業あるいは起業家のことをもっと知る機会や情報も増えているように思います。

「1万円起業」や「プチ起業」という言葉をよく耳にするほど起業しやすくなった一方で、起業に対するイメージや目的は多様であるため、女性起業家のニーズもさまざまです。起業した次に大切なのはそれを継続すること。長く継続するためには起業するときの計画や準備が必要です。わたしたちの団体でも多様化する女性起業家のニーズに応えるべく、女性起業家が自立できるような支援を広げていきたいと思っています。

＊両立の困難も＊

女性起業家を取り巻く環境には、まだ課題も多くあります。その一つが仕事と家庭との両立で、交流会などでもよく悩みを耳にします。女性起業家の2人に1人が家事・育児の負担感を感じているという調査結果もあります。特に、事業が軌道に乗るまでは仕事を優先せざるをえないときもあり、保育園や託児所の整備や病児保育の整備は、小さい子どもを持つ女性にとって切なる願いです。また、収入がパートナーよりも多くなったときの家族関係の悪化など、男性ではまず聞かれない問題が起こることもあります。家族の協力や仕事と家事・育児を両立できる環境の整備は、企業で働く女性だけでなく、女性起業家にとっても大きな課題です。



阿部純子さん

大阪市女性起業家情報交流協会会長。
大阪府本町にあるじゅん矯正歯科クリニック院長。

大阪市女性起業家情報交流協会
<http://osaka-wes.com/>

＊責任があるからこそその醍醐味＊

「私なんて・・・」「女だから・・・」と、自分に引け目を感じて何かを諦めたりせず、自分のやりたいことを決めたら、チャレンジしてみてください。壁を乗り越えるたびに自分に自信がつき、困難なことがあったとしても「何とかなる」と前向きになることができます。

また、私は起業したことで人と人のつながりを通して、互いに高め合える友ができました。起業すると自分が広告塔として前面に出たり、外に出ていく機会が増えます。そこで多くの人との出会い、確かな人脈を得ることができたからだと思います。一般的に大人になってから友人をつくるのは難しいと言われるかもしれませんが、仕事や経営における悩みを共有できる仲間もできました。経営者という責任は大きいものですが、その立場でしか学べないことや楽しさがたくさんあります。起業したことで、私の人生がより豊かになったと思っています。

また起業したことで、自ら積極的になるといった良いことがあります。ことあるごとに一喜一憂することもなくなり、トラブルが起こっても常に解決策を見出そうとする姿勢が身につきます。女性はおしゃべりが好きな生き物ですから、人脈づくりに長けていますし、起業の際、本当に自分が困った時に手を差し伸べてくれる、かつお互いの志気を高めあえる友人や仲間を見つけるのも上手だと思います。

起業において非常に重要なことであると同時に醍醐味でもあるのは、組織のトップとしての責任感を常に味わえることです。責任を重荷に感じてしまうことも多いとは思いますが、そのプレッシャーを跳ね除け、責任があるからこそできることを楽しんでください。

インタビューを終えて

～インターンシップの実習でインタビューを行いました～

●性別にとらわれず、個々人がそれぞれの能力を生かし、何かを成そうとするならば、まず行動することが必要だと学びました。阿部さんから「学生のうちは自分の限界を決めず、何でもチャレンジしたほうがいい」とアドバイスをいただき、残りの学生生活を大切に過ごそうと思いました。

●相手の話を頭の中で要約して、素早くノートに書き込みつつ、様々なエピソードを引き出すことに努めました。「女性の起業」は、これから社会で活躍する女性にとって重要なテーマの一つです。より多くの女性にとって、このインタビュー記事が、起業を将来のワークキャリアの選択肢として考えるキッカケになれば良いと思います。

